
スマブラで逃走中やっちゃうよー

瑞希 優羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラで逃走中やっちゃおうよー

【Nコード】

N7779X

【作者名】

瑞希 優羅

【あらすじ】

タイトルどおり、スマブラのキャラで逃走中をしマス

適当に頑張りますのでよろしくネ！

ヒマな人、是非ミテネ

はじめましょー

ゆうら「えっと・・・さっそくですが、スマブラのキャラの皆さん
逃走中やってください。」

マリオ「はっ？何言ってるのゆうら、おまえ」

ゆうら「だから、とうそうちゆう・・・」

マリオ「やらないぞ！なんでやらないとだめなんだよ！なあ、みん
な！」

スマブラのキャラたち「やりたくない・・・」

ゆうら「みんなあ・・・。だって友達が小説書き始めたんだもん。

ゆうらもやりたいよう。みんな100円ずつあげるから逃走中やる
っ！」

マリオ「そんなんでみんながつられる訳・・・」

スマブラのキャラたち「やるっ！」

マリオ「はっ？みんな100円でつられちゃったの？ねえ・・・」

ゆうら「みんなありがとー・・・さあ、まりおくんどうするかね？
みんなやるみたいだよ？」

マリオ「うわっ！なんだこいつ・・・急に上から目線なんですけど
・・・。」

ゆしつら「びーするっびーするっ。」

マリオ「あゝ、もうやるよ！そのかわりちゃんと100円くれよ！」

ゆしつら「よっっ…きまりっ…じゃあ、はじめよー逃走中ー」。

はじめましょー (後書き)

見てくださった方々ありがとうございます！
これからも頑張りますね。

次、キャラ紹介書きたいと思います

キャラ紹介します。

ゆづら「それでは、キャラ紹介いつきまーす」

マリオ ミスター任天堂！生意気なおっさん。

足は・・・遅いんじゃないかな？おっさんだから・・・

ルイージ マリオの双子の弟。影が薄い・・・。

マリオ同様足は、遅いだろう。

ピーチ キノコ王国のお姫様。ムカつくやつには容赦ない（マ
リオも

その一人）ドレスだから足、遅いよね・・・

クッパ いつも、ピーチをさらう悪いカメ。

やたらでかいし、短足だから足は、遅い！

ワリオ なんか悪そうな顔をした人。不良みたい・・・。

足は、遅い！だって、おっさんだから……。

ドンキー

バナナが好きなサル。

足が速いのかは、うーん……わからない！

デイデュー

ドンキーの弟分。バナナは好き。

すばしっこそう……。

リンク
いだ

ハイラルの勇者。ゼルダに片思い中。（本当は、両思

い！）足は、速そう……かな？

ゼルダ
思い

ハイラルのお姫様。リンクに片思い中。（本当は、両

だよ！）ドレスだから遅いだろう……。

シーク

いつもはぜるだの中にいる。今回は、私が分離
させたよ！足は、けっこう速い。

ガノンドロフ 顔がものすごく怖い……。作品中はガノンと略し

ます。足は……。うーん……。

トゥーンリンク ちっちゃいリンク。作品中はトゥーンと略します

足は、速いでしょう。

カービィ ププランドの住人。丸いピンクの物体。
足は、遅いと思う……。

デデデ大王 ププランドの王様。めんどくさがり屋。作品中はデデデと略します。足は、遅いだろう……。

メタナイト 仮面をかぶった丸いやつ。素顔はかわいい。
足は、速そうだけど……。どうだろう？

ポケモントレーナー ポケモンを持っていなかったら普通の少年。

作品中はトレーナーと略します。
足は、普通ぐらいかな。

ピカチュウ

人気のポケモン。私も大好き。
なんか、すばしっこそう・・・。

ルカリオ

ポケモンの映画で活躍したポケモン。波動が使える。
足は、まあまあ速いと思う。

プリン

丸くてかわいいポケモン。走るのはキライ。
隠れるのは得意。

ネス

PSIが使える少年。かわいいのだが、たまにクロい発言
をする。足は、遅くもないし、速くもない・・・。

リュカ

ネス同様PSIが使える。心優しい少年。
(ネスとは違って・・・)
足は、ネスよりほんの少し遅いぐらいだろうか？

ピット　パルテナ親衛隊長。人の不幸が好きで、結構生意気な少年。

足は、普通よりも速め。

フォックス　スターフォックスのリーダー。時々、やんちゃなやつ？

足は、結構速いらしい。

ファルコ　スターフォックスのメンバー。あだ名は、焼き鳥。
足は、フォックス同様、結構速いらしい。

ウルフ　スターウルフのリーダー。フォックスやファルコとは、仲が悪い。
フォックス、ファルコ同様足は、結構速いらしい。

ポポ　アイスクライマーの一人。イメージカラーは水色。
足は、そこそこの速さ。

ナナ　アイスクライマーの一人。イメージカラーはピンク。

足は、そのその速さ。

スネーク　いつもダンボールの中に居るおじさん。

足は、普通ぐらいだろう。

ファルコン　なんか、いい感じのおじさん。

足は、すごく速い。らしい。

ロボット　ロボットです。片言でしゃべります。

足は、速いということにしておきます。

Mrゲーム&ウオッチ　真っ黒の人間。こちらも片言でしゃべる。

作品中はウオッチと略します。

足は、速くない。

サムス　逃走中には、ゼロスーツで挑みます。

足は、なかなか速いです。

ヨッシー

緑色の恐竜。なんでも食べる。
足は、結構速い。

アイク

グレイル傭兵団の団長。お肉大好き青年。
結構足は速い。

マルス

アリティアの王子。腹黒くてドS。
自分で俊足と語っている。

オリマー
ナシ。

ピクミンをつれている人間。逃走中では、ピクミン
足は、普通の速さ。

ソニック

青いハリネズミ。
足は、逃走者の中で一番速い。

マスターハンド

逃走中の管理を勤める。
私が100円で雇いました。
ミッションとかも作っています。気さくで面

白い人です。

クレイジーハンド マスターハンドと同じ文章です。

ハンター 足が速い人。

ゆづら 私です。ちよくちよく出てきます。

以上。

他にも、新しいキャラが出るときは、紹介します。

キャラ紹介します。(後書き)

キャラ紹介、疲れました・・・。

エリア紹介&ルール説明(前書き)

更新遅れてしまいました。

見てくださっていた方、申し訳ありませんでした。

以後、気をつけます。

エリア紹介&ルール説明

エリアショーかい

逃走中の舞台は『スマブラパーク』という場所に決定しました。

(勝手に作りました)

『スマブラパーク』はノースタウン、サウスタウン、イーストタウン、ウエストタウン、セントラルタウンの五つのエリアで構成されてるよ。

自首するための電話ボックスは各エリアに1つずつ。

牢獄は、セントラルエリアの広場にあります。

エリアショーかいは以上。

次、ルール説明。

ルールは、普通の逃走中とあまりかわらないよ。

逃走時間は、240分。

賞金は、一秒200円ずつアップ。

逃げ切ることができれば、288万円ゲットできるよ。

もし、自首すればそれまでの賞金をゲットできるよ。

ハンターに捕まれば、もちろん賞金はなしだよ。

(だが、ゆづらが最初約束した100円はもらえます。)

そして、ここからは普通の逃走中にはないルールです。

ゲームの最初、逃走者にクレジットカードみたいなものが配られるよ。

このカードには、あらかじめ50ポイント入っていてミッションをクリアすることにポイントがたまっていくよ。

このポイントは、各エリアにある『道具屋』にてハンターに対抗するための道具と交換できるよ。

もらえるポイントの量は、ミッションによって異なるよ。

難しいミッションは、もらえるポイントが高いよ。

ルール説明は以上です。

では、逃走者のみなさんががんばってください。

エリア紹介&ルール説明（後書き）

なんとか、ルール説明終わりました。

次は、オープニングゲームですね。

がんばります。

オープニングゲーム!? (前書き)

今回は、更新がんばりました。

オープニングゲーム!?

スマブラパーク、セントラルエリアの城前。

ここに集められたのは、スマブラメンバー37人。

メンバーたちの目の前には、4つのハンターボックス。

ハンターボックスには、色とりどりの37本のクサリがつながっている。

マリオ「なんか緊張してきたんだけど……」

ルイージ「そうだね、それにもう皆集まってるしそろそろ始まるんじゃない?」

カービィ「楽しみペポ!」

ピット「金がもらえるってなんかヤルキでるよね!」

アイク「もし逃げ切れたら、お肉くいたい・・・」

皆さん前よりはヤルキになったようです。

すると、楽しくおしゃべりしている皆のうしろから・・・

？「やーみんなー。元気してる？」

メンバー一同「ん？」

後ろを振り返ったメンバー。

そこにいたのは・・・

マスター「みんな、こんにちは。マスターハンドとクレイジーハンドだよ！」

クレハン「だよっ！」

リンク「マスターハンドさんたちも参加するんですか？」

マスハン「いや、僕らは裏方だよ。ミッションとか考えたりとか・
」

クレハン「こうして、今現れたのもいろいろ説明しに來ただけだから・・・」

スネーク「そうなのか・・・」

マスハン「まあ、それはおいといて、早速逃走中を始めたいと思います。」

メンバー一同「イエーイ！」

急にテンション高っ!?

まあそれはいいとして、

クレハン「それでは、今から皆さんにはクジを引いてもらいます。」

(ちなみにこのクジは、昨日徹夜でクレハンががんばって作りました。)

ネス「あっ、それってあれでしょ？1番を引いた人から順番にあのクサリを引っこ抜いて

いくやつ！やったー！あれ一回やってみたかった………
……」

マスハン「ネス君、少しの間黙っていてください。」

ネス「はあ？そっちが黙れゴミハンド！」

さっきのネス君は一体どこへ………

マスハン「ごめんなさい。ねすくん。」

マスハン「き、気をとりなおして皆、クジを引いてくれ。」

皆がクジを引き終わりました。

リユカ「僕が1番です。怖い・・・」

ピット「やったー 最後だ最後ー！リユカーがんばっ」

フォックス「ピットいいなー俺、16番。中途半端でなんか嫌！」

マルス「僕は、2番。1番と2番と3番は、絶対安全。」

ゼルダ「なんでそんな事わかるんですか？ちなみに私は、29番です。」

マルス「それは、あれだよ。最初にあたりを引いちゃったらおもしろくないからだよ。」

クジ引きが終わり、なんだかテンション高めの皆さん。

オープニングゲームは、一体どうなるのか？

お楽しみに

オープニングゲーム!? (後書き)

やっと、本編に入りました。

これからも、がんばります。

オープニングゲーム!?

クレハン「じゃあ、クジ皆引き終わったみたいだから簡単にルールを説明するぜ。」

マスハン「……………」

マスハンはまだネスが放った言葉『ゴミハンド』のショックから立ち直れていないらしい……。

クレハン「ルールは、ネスが言っていたことと同じだ。一番を引いたやつから順にあのクサリを引いていく。それで、誰かが一本だけあるアタリのクサリを引いたらゲーム開始だ。」

ウォッチ「ツマリ、ソノ『アタリノクサリ』ト言ウノガ、ハンター放出ノクサリナンデスネ?」

クレハン「そーゆー事です。あと、皆にはこれを渡しとかないと……」

そういつて、クレハンが鞆から取り出したのは、37枚のカード。

そのカードをクレハンは、皆に手渡しで配った。

クツパ「なんだ？これ？」

マスハン「あっ！それは、説明する！」

さっきまで、一言もしゃべらなかったマスハンが急にしゃべった。

シーク「うわっ！びっくりした・・・さっきまであっちで沈んでいたのに、立ち直り早いな・・・」

マスハン「ちょっとまだ、気もちは沈んでるけど、これは説明したかった。」

ウルフ「自分で、沈んでるとか言うなよ・・・」

ピカチュウ「それに、なんか理由が子供っぽい・・・」

マスハン「うっ、うるさいぞ！説明したかったんだからいいじゃないか！」

ヨッシー「別にいいですけど・・・」

マスハン「よし、じゃあ説明するぞ。このカードはスマカードと
いって、『スマ』というポイントをためるカードです。スマは、ミ
ッションをクリアすると貯まります。ちなみに、スマが貯まるとエ
リアに1つずつある道具屋でハンターに対抗する為の便利グッズと
交換することができますよ。

カードについての説明は以上。」

クレハン「次に、何か必殺技を持つてる人っているよね？PKナン
チヤラ〜とか・・・

そんな人には『必殺技つかえなくなーるリング』という
ものを指にはめてもらい

ます。」

クレハンは、必殺技が使える人たちにリングを渡した。

てか、ネーミングセンスなさすぎっ

クレハン「あと、羽とかついてる人、とってください。」

メタナイト&ピット「あいよ。」

ポスッ。

マリオ「羽って、取り外し可能だったの？なんか、もうなんでもアリなんだね。」

マリオ、あきれいています。

マスハン「さあて、ルール説明も終わったことだし、そろそろ始めますか。」

そして一人目……

リュカがハンターボックスの前に立った。

ほかの皆は、ハンターボックスから20m離れた場所で待機している。

ポポ&ナナ「リュカ、何色にするの？」

リュカ「決めました。オレンジ色にします……それじゃ、引きますよ……せーのっ」

ガシャ・・・

一人目リュカ、セーフ。

ちなみに、セーフだった人はどこか遠くでゲームを始めることができます

リュカ「よかったです。それでは皆さん、頑張ってください。サヨナラ。」

リュカは、向こうのほうへ消えていった。

オープニングゲーム!? (後書き)

中途半端になってしまい、すみません。

近いうちに、更新しようと思います。

オープニングゲーム!?

オープニングゲーム2人目はマルス。

マルス「じゃあ、黒にしよーかな」

ドンキー「なんでハンターカラーなんだよ。」

マルス「2番目は、アタリを引かないって言うルールがあるから何色をひいてもいいんだよ。」

デイディー「そんなルール誰も作ってないと思う……」

ガシャ……

2人目マルスセーフ。

マルス「ほら、やっぱりひかなかった。」

ピーチ「リュカ君みたいに「セーの」とか言ってほしかった・・・」

マルス「じゃー皆がんばって。ばいばい」

ファルコ「何かあいつ、地味にムカつんだけど・・・」

全員「同感。」

マルスは皆がひどい事を言っているとも知らず向こうへ走っていた。

3人目は、ルイージ。

サムス「みなさん、逃げる準備オーケーですか？」

全員「大丈夫です。」

ルカリオ「ルイージ、もう引いてもいいぞ。こっちは準備できてる。」

ルイージ「ちょっと、皆何してんの？逃げる気まんまんじゃん。」

マリオ「だって絶対ひくじゃん……」

ルイージ「決めつけんなっ！」

ロボット「ハヤク、ヒイチャイマシヨウ。」

ルイージ「じゃあ、緑で……ひきます……」

ガシャ……

3番めルイージセーフ。

ルイージ「ひゃっほおおおおうー！」

異常なくらい喜んで……。

ネス「ちっ……ひかないのかよ。」

ルイージ「まあ、みんながんばって。」

ルイージは向こうへ走っていった……喜びながら……。

ファルコン「ルイージ……不安だったんだな。」

ファルコンは、走り去るルイージを見ながらつぶやいた。

そして、4番目ソニックは、白色。5番目ネスは、紫色。とクサリを引いていったがハンターはまだ放出されなかった。

そして次にクサリを引くのは、ガノン。

ピーチ「まさか、あなたが引かないわよね。」

ガノン「大丈夫だ……ろっ。」

プリン「まあ、頑張るでプリ。」

トレーナー「で、何色引く？」

ガノン「うむむ……茶色にしよう。」

オリマー「これまた、地味な色をえらびましたね。」

ガノン「じゃ、ひくぞ……」

ガツシャン……

ハンター放出。

出てきたハンター達が、まず狙うのは……ガノン。

ガノン「ちよつ、おええええ！ハンター早っ！無理無理、無理だつてば！無理いいいいいい」

ポン。

ガノンドロフ確保。

残り36人。

ぴろろろろろ・・・

メールだ。

スネーク「なにになに・・・ガノン確保か・・・当たり前だな！」

スマブラパーク城前・・・

ゆうら「おつかれ〜。クレハン、マスハン」

マスハン「おおっ、ゆうら。」

ゆうら「いやあ〜、オープニングゲーム楽しかったよ。これからも

頑張ってくれ！我がしもべたちよ！」

クレハン「あんま調子のつたらぶち殺すよっ」

ゆづり「しゅめん・・・」

さて、次回より逃走中スタートです。

オープニングゲーム！？（後書き）

やっと、オープニングゲーム終わりました。頑張って書きます。

そこで、宣伝タイム。

まっきー（死神魔姫くんの事です）が書いてる、大乱逃走中って小説。

そっちも見てほしいです。

宣伝タイム終了。

MISSION 1 (前書き)

やっと、オープニングゲームから抜け出せました・・・

MISSION 1

ゆうら「ミッション1どーするの?」

クレハン「とりあえず、ハンター増やしとけ。」

マスハン「そーだな、じゃあもうちょっとしたらメール送るか・・・

」

クレハン「つーか、3人で裏方やんのきつくねっ?」

マスハン「たしかに・・・おいつゆうら、誰かいないの?」

ゆうら「いるよ!呼んどいた・・・友達。だから大丈夫!さあ、そろそろ待機場所いこっ」

3人は、待機場所へむかった。

そのころ、逃走者たちはというと・・・

ピーチ「ここまできたら安心ね。ほんとにさっきは焦ったわ・・・自分のドレス踏んじやうなんて・・・」

ピーチのまわりに人影なし・・・

独り言、言ってるし・・・

プリン「もう疲れたプリ。どこかに隠れて休むプリ・・・。あつ、あそこにするプリ。」

プリンの目の前には、いい感じの大きさのBOXが・・・

プリンはそのBOXにはいつていった。

でも・・・プリンは気づいてないと思うけど、結構丸見え・・・。ハンター来たら相当ヤバイです。

ピット「うわっ、まだ235分も残ってる・・・」

今、始まったばかりなのに何を言ってるんだコイツは……

マルス「まだ5分しかたつてないし……マジでないわぁ……」

コイツもか!!何が「ないわぁ」「やねん!真面目にしろよ」。

ソニック「俺のこの足があれば楽勝だぜ」。

でも、この余裕をぶっこいてるソニックの後ろに迫っているのは……

ハンターだ。

だが、ソニックは気づかない。

どンドン距離が縮まっていく……

ポン。

ソニック確保。

残り、35人。

ソニック「ええええええ！？いつの間に・・・オーオーマイガアアアアアア。」

ソニックは力尽きた・・・

ぴろろろろろ・・・

メールだ。

トウーン「ソニックさん確保・・・ええっ！あの足の速いソニックさんが？ハンター恐るべし・・・」

そのころ、待機場所では・・・

マスハン「もうそろそろミッションやるつか・・・」

クレハン「そうだな。じゃあ、メール送るぜ・・・」

クレハンはケータイに文字を打ち始めた。

クレハン「送ったぜえ〜。」

ゆうら「みんな、どんな反応するかな？」

ぴろろろろろ・・・

ヨッシー「またメール！・・・なんたる・・・。」

ミッション1

ミッション1の内容を伝えます。先ほど、各エリアに3個ずつハンターボックスが設置されました。エリアは全部で5つあるのでパー

ク内には15個のハンターボックスが存在していることになります。このハンターボックスは、残り時間210分になると自動的にボックスが開き、パーク内のハンターが19体になります。皆さんはそれを阻止することができます。方法は、制限時間内に、どこにあるか分からないハンターボックスを見つけ、その横にある暗証番号入力装置に自分のスマカードの暗証番号を入力するだけです。1人何個でも阻止することができます。ミッション終了後、阻止した数にみあった、スマ（ポイント）を入力された暗証番号の、スマカードへお支払いします。

以上です。
ミッションに参加するかは逃走者の自由です。

アイク「ハンターが増えるのか……。これはやるしかないな。」

ピカチュウ「ううう……。ほんとに行きたくないけど、ハンター増えるのやだし、ポイントもほしいから行こうかな……」

フォックス「うげっ……。ハンター19体とか無理だろ……。一体だけでもいいから片付けておくか……。ちよっとポイントもほしい……」

逃走者のほとんどはミッションに向かう様子……

さて、この後の展開は!?

MISSION 1 (後書き)

皆さん見てくれてありがとうございます。

ついに、アクセス数が700突破！

ちょっと、びっくりです。

見てくださっている方、これからも頑張りますのでよろしくお願
い
します。

MISSION 1 パート 1

ルカリオ「ハンターボックスどこだよお……」

サウスエリアを走り回るルカリオ。

ルカリオ「建物の中とかは、ないよなあ……」

そついいながら、普通の民家の中へ入っていった。

不法侵入じゃないか？という疑問は、置いて……

ルカリオ「やつぱり、ないよねえ……あつ……あつた。」

ルカリオは暗証番号を入力。

残るハンターボックスは、14個になった。

ルカリオ「俺、よくこんなにつばいある民家の中からハンターボックスのある民家に入ったな……ちよー運いい！つて、こんな民家の中にあるんだつたら探すのめんどいな……誰かに教えてやる

「と。」

びろろろろろろ．．

ルカリオが電話をかけたのは．．．

アイク「ん？もしもし．．．アイクですけど。」

アイクだった。

ルカリオ「俺、ルカリオなんだけど．．．」

アイク「えっ？どうかしたのか？とゆうか、俺あんましルカリオと面識ないと思うんだけど．．．」

ルカリオ「うん、面識ない。ただ、電話帳で最初に出てきたのがアイクだっただけ。ほらっ、ア行だから。」

アイク「ああ、そうか。で、何か話があったんじゃないか？」

ルカリオ「そーそー、ハンターボックスのことで。俺、今ハンター

ボックス見つけたんだけど、どこにあったと思う？民家だよ民家、ごく普通の民家にあったから、建物の中もよく探したほうがいい。っていう事を伝えたかった。以上。できたら他の人にも伝えたい。じゃっ」

ぷっつ　っーっーっー。

このあとアイクは、ルカリオに教えてもらったことを、頑張って逃走者全員に伝えました。

ポポ「ハンターボックスどこだろお？」

ノースエリアを歩き回るポポ。

ポポ「アイクは、建物の中にもあるとか言ってたし、あそこにも入ろうかなあ……」

ポポが目指すのは、何かの施設。

だが、目の前に現れたのは……ハンター。

ポポ「うわああ！ハンターだあ・・・もう、走れないよあ・・・」

ポン。

ポポ確保。

ぴろろろろろ・・・

メールだ。

ワリオ「ポポ確保、残り34人！まったく、子供はダメだな！！」

今すぐ、殺してやりたいが・・・我慢我慢。

ミッション残り時間あと15分。

いったい何体のハンターが放出されるのだろうか？

そのころ待機場所では・・・

クレハン「お〜いゆうら、まだ友達こねーの？」

ゆうら「あつ、その事なんだけど、急にドタキャンされちゃって、6人いたんだけど・・・全員。」

クレハンとマスハンのヒソヒソ話タイム

マスハン「あれっ？ゆうら、友達に嫌われてるんじゃないかって思ったのって私だけ？」

クレハン「大丈夫だ。俺も思った。ゆうらの学園生活大丈夫か？心配なんだけど、マジで」

などなど、ヒソヒソ声でしゃべっていたマスハンたちでした。

MISSION 1 パート ツー (後書き)

何か変な文章などありましたら言ってください。

数がおかしいですよとか。

ご協力お願いします。

MISSION 1 パートスリー（前書き）

本当は、土曜日に書く予定だったんだけどね・・・

MISSION 1 パート スリー

その頃、イーストエリアに居たマリオは・・・

マリオ「おーーーーー！あつた！」

船着場の棧橋の上にあったハンターボックスを見つけたようだ。

マリオ「やったやった！ポイントゲット」。

マリオは、スキップをしながらハンターボックスに駆け寄り暗証番号を入力。

残るハンターボックスは、13個になった。

マリオ「よっしゃあ！この調子でがんばるぜえい。」

そういつとマリオは、どこかへ走り去っていった。

ファルコ「ハンターボックス見つけ！！！」

ハンターボックスを見つけたのは同じく、イーストエリアに居たファルコだった。

ファルコは建物を中心に探していたらしく、映画館の中に居た。

ファルコ「やっぱり、俺のよみは間違っていなかったな。」

と、言いながら暗証番号入力。

残るハンターボックスは、12個になった。

ファルコ「よかった・・・1個でも見つけることができて・・・」

だが、安心しているファルコの前に突然現れたのは・・・ハンター。

ファルコ「ハ、ハンター！？俺、めっちゃ運悪！なんで4体しかないハンターがこんなちっちゃい映画館にいるんだよ！どんな確率でこんな事になるんだ？」

ファルコがごちゃごちゃ言ってる間にハンターはファルコの後ろに

迫っている。

そして・・・

ぽん。

ファルコ確保。

びろろろろろろ・・・

メールだ。

ネス「焼き鳥つかまってんじゃん あははははははは〜っける〜」

焼き鳥って・・・せめて、ファルコっていつてあげてね・・・

そして、ミッション残り時間5分。

びろろろろろろ・・・

またメールだ。

「デイディー」『ミッション1ちょっと遅めの途中経過』だって……
」

ハンターボックスがあとどれだけ残っているか、と、阻止した人の名前をお知らせします。

ノースエリア……まだ、だれも阻止してません あと3個

ウエストエリア……オリマー あと2個

サウスエリア……ルカリオ、シーク、メタナイト あと0個

イーストエリア……マリオ、ファルコ あと1個

セントラルエリア……スネーク、スネーク あと1個

です。

カービィ「まだ7個も残ってるペポ。もっと頑張らなきゃペポ。」

そして、あっという間に残り15秒。

何とか、ピット、カービィ、スネーク、リュカ、ウォッチのおかげで5個は阻止できた。

4分45秒でよく頑張ったと思う。

そして、カウントダウンが始まった。

この15秒で阻止することができるのか？

15

14

13

12

11

10

リンク「見つけた〜早くしないと。」

おっ、リンクが見つけたようだ・・・

9

8

7

6

5

リンク「暗証番号、暗証番号・・・」

4

3

リンク「手が震えて、押せない・・・やばい！」

2

リンク「もう無理。逃げる」

って、逃げんのかい！

がしゃん・・・

ハンターが2体、放出された。

リンクはというと、完全にハンターに見つかってしまっている。

リンク「ちょー、タイムタイム。待ってってば。」

そして・・・

ぽん。

リンク確保。

メールだ。

ルイージ「おっ、一人緑が消えた！ラッキー。」

続いてまたメール。

ルイーダ「なにになに・・・『ポイントの振りわけについて』か。」

オリマー、ルカリオ、シーク、メタナイト、マリオ、ファルコ、ピット、カービー、リュカ、ウオッチには、ポイント30スマが振り分けられました。

スネークは、90スマが振り分けられました。

以上。

スネーク「90スマだあー。後でさっそく道具屋行ってみるか・・・」

残る逃走者は、32人。

こうして、ミッション1終わりました。

MISSION 1 パートスリー（後書き）

いろんな所、省略しました。

読みにくかったら、ごめんなさい。

MISSION 1が終わって・・・(前書き)

めっちゃ、更新遅いですよね・・・私って。

まず、私の小説楽しみにしてる人なんていないと思うけど・・・
マリオ「なんか、めっちゃネガティブオーラ漂ってるんだけど・・・
まあ、あいつはほづつといて、小説を読んでください。」

MISSION1が終わって・・・

スネーク「あー、道具屋。」

140スマを持ったスネークは道具屋の前にいた。

スネーク「ちょい、よってみるか・・・」

カランカラン (ドアが開いた音)

????「おお、いらっしやあーい。」

スネーク「おう、ロイじゃないか、久しぶりだな!」

ロイ「スネークかあ、ここは、道具屋だよ。何がいる?」

ロイの目の前の棚には、いろんなものが並んでいる。

ロイ「ええっとね、ここに売ってるのは・・・クラッカーランチャーとスーパースターとモンスターボールとおとしあなのタネとサン

ダーだよ。どうするっ？」

スネーク「おっ、いいのあるじゃないか。100スマのクラッカーランチャーくれ。」

ロイ「まいどありいー。はい、どーぞ。」

スネークは、クラッカーランチャーを手に入れた。

ロイ「弾は2発はいつてるよ。大事につかってね。」

スネーク「っーか、なんでロイがいるんだよ！」

ロイ「なんでつてひどいなあ・・・なんか、本当はゆづらの友達が来るはずだったらしいんだけど、ドタキャンされたらしいよお。だから、代わりに僕らがよばれたの。」

スネーク「そうなのか・・・まっ、がんばれよ。」

ロイ「そっちもねえ、じゃあばいばい。」

カランカラン

スネークは店をあとにした。

デデデ「なんとか頑張ってるぞい。」

ピット「そうだね、デデデのくせにまーまー頑張ってるよね。」

2人はなんかよくわからないけど一緒にいるようだ・・・

デデデ「くせになってなんだぞい。」

ピット「いーじゃんいーじゃん」

だが、そんな二人の前にハンターが現れた！

ピット「やばっ、ハンター！まずい。」

デデデ「ほんとだぞい！逃げないとぞい。」

頑張つて走る二人……でもハンターとの距離は縮まっている。

ピット「ええい、仕方ない！」

そういつとピットは、デデデの足を引つ掛けた。

デデデ「ぶえっ!?!」

デデデは大きく転倒。

ピット「デデデーありがとう。絶対に忘れないからあー!。じゃっ

ピットはすごい速さで遠ざかっていった……

デデデ「ちよっ、ええええええええ!あのガキなんて事するんだぞい
!」

そして……

ポン。

デデデ大王確保。

びろろろろろろ．．

プリン「デデデ大王確保、残り31人．．ぷぷぷつ！隠れないからこついつことになるぷり。」

そういうプリンもちゃんと隠れできてないですけどね。というか、まだつかまってないのって奇跡だよ。

いきなりだけど、「牢獄でトーク」はじめちゃいます。

デデデ「ピットのやつらうう、むかつくぞい！．．！」

ピットのせいで、つかまったデデデ、かわいそうだなあ．．．

で、今牢獄に入っているのは、5人。

ゆうら「みんなーきたよ。」

そして、なぜかゆうら登場。

リンク「おっ、ゆうら。なになに？何か持ってきたの？」

ゆうら「持ってきたー。おやつ」

牢獄の皆「イエー！！！」

ゆうら「あいすくりーむなんだけどね、3つしかないの。1つは私のだから、2つ誰かにあげようと思って持ってきた。」

ファルコ「じゃあ、どーするんだ？」

ゆうら「私、ポポちゃんには、あげるつもりだったから5人でじゃんけんして！」

ポポ以外の5人「えっ！なんでポポだけ？」

ゆうら「だって、ポポちゃんちっちゃいもん。かわいいもん。」

ガノン「そりゃ、ないだろー」

ごちゃごちゃ・・・

なんか、もめてる牢獄でした。

MISSION1が終わって・・・(後書き)

感想待ってます。

何でも言ってくください。

M I S S I O N 2 始まるよーいー (多分) (前書き)

MISSION 2 始まるよー (多分)

クレハン「なあ、あいつ(ゆづら)どこいったんだ？」

マスハン「あー、さっき」ポポちゃんとあいすくりーむたべてくる」って言って牢獄に行った。」

クレハン「別に、あいつの言い方まねしなくてもいいけど・・・。まあ、それよりそろそろミッションやりたいんだけど、どーするんだ？」

マスハン「んーと・・・、なんか適当に考えて送っという。」

クレハン「ちょー、適当だなおまえ。まあ、わかった。適当にメールしとく。」

ぴぽぴぽ・・・

クレハン「送信完了ー」

びろろろろろろ．．

ゼルダ「あら？メールです。なになに．．．ミッション2．．．ですか。」

ミッション2

ミッション2の内容を伝えます。これから皆さんにはいろんなところに設置してある宝箱の中身を回収してもらいます。そしてその回収した物をセントラルエリアにある、城の最上階に置いてある箱に納品してもらいます。これが、今回のミッションです。結構、簡単なミッションなので全員参加してくれるとありがたい。それに、このミッションに参加しなければ強制失格となり牢獄行きですのでご注意ください。スマは、ミッションを1番にクリアした人に100スマ、2番から8番にクリアした人に70スマ、9番から18番にクリアした人に40スマを振り分けます。19番以降の方、もしくは強制失格となった方には振り分けられません。残り時間、170分まで受け付けます。

以上です。

ウルフ「強制失格だー！これは、やらないとー！」

ナナ「宝箱さ〜ん．．．どこおー？」

プリン「動きたくないプリ．．．でも強制失格はいやプリ．．．仕方ないプリ。」

おっ？プリンが動いた！やはり、全員行くのか！？

そして、宝箱をいち早く見つけたのは．．．

ファルコン「おお？宝箱はこれじゃないか？」

ファルコンだった．．．

そして、ファルコンは宝箱を開けた。

ファルコン「なんだ？紙切れ？．．．えっ．．．10000円札？」

なんと、この宝箱には10000円札が入っていた。

ファルコン「もって帰りたい．．．が、我慢だ。さあ納品しに行こ

う。」

ファルコンは城に向かって歩き出した。

マリオ「宝箱どこにあんだよー。めんどくさい……」

めんどくさいオーラを身にまとったマリオ。

そして、そのマリオに近づく黒い影は………ハンター。

マリオ「うわあっ！ハンターハンターハンター……！ヤバイ、ハンター」

どんだけハンターって言うんだ……

マリオ「やべえって！もう、後ろに迫ってる！」

そして……

ポン。

マリオ確保。

残り、30人。

びろろろろろろ...

ロボット「ア...メールデス。マリオサン確保...アララ、ツ
カマッテシマッタデスネ。」

逃走中、残り時間はあと200分。

がんばれ〜皆。

そして、そのころ牢獄では...

ゆづら「ジャンケン大会い〜。」

ジャンケン大会が始まっていた。

ソニック「俺、あんまり自信ないんだけど・・・ジャンケン。」

リンク「僕も・・・」

ゆうら「えっと、王様ジャンケンするよ！私が、王様。いくよ、ジャンケン・・・」

マリオ「俺もまぜてくれ」

デデデ「マリオ！！！！」

ファルコ「ちっ、多くなったらめんどうなんだけど・・・」

マリオ「何か言ったかな？ファルコ君。」

ファルコ「別に・・・」

ゆうら「じゃ、マリオも入れてジャンケンしよう。こんどこそ、じゃんけんぽん！」

ゆづら「・・・ゲー。」

ガノン、ソニック、リンク、ファルコ、デデデ・・・チヨキ。

マリオ・・・パー。

よって、あいすくりーむ争奪戦？マリオの勝利！。

ゆづら「ジャンケンに勝ったマリオ君にはあいすくりーむがプレゼント
ントされました。おめでとう！」

マリオ「ラッキー」

ゆづら「じゃあポポちゃん、一緒にあいす食べよ。」

ポポ「もう、食べちゃった。」

ゆづら「・・・。。。」

そのあと、ゆづらは一人であいすを食べました。

MISSION 2 始まるよーいー (多分) (後書き)

いまさらなんですけど、キャラ崩壊多いです。

最初に言っべきでしたね・・・。

MISSION 2 パート ツー (前書き)

小説の更新、順調です。

この調子で頑張ります……!!

MISSION 2 パートツー

逃走者たちは、本当に全員ミッションに参加していた。

そして、イーストエリアにいたドンキーは・・・

ドンキー「宝箱宝箱・・・あれじゃないか？」

ドンキーは、宝箱っぽいものを見つけたようだ。

ドンキー「やっぱり！！宝箱だ！！！！」

宝箱の中身は・・・

ドンキー「なんだこれ！なんか、ヌメヌメしてるんだけど！」

何かよくわからない、ヌメヌメしたものだった。

ドンキー「こんなを、城まで運ぶのか・・・まあ、がんばろ・・・

「

セントラルエリアにいた、ネスも宝箱を開けていた。

ネス「あっ！包丁じゃん。」

ネスは、宝箱の中の包丁を手にとった。

「つか、子供にこんなもの持たせてもいいのだろうか？

ネス「包丁ゲット さーて、何に使おう？」

事件が起こらないことを祈ろう……。

その後も逃走者たちはぞくぞくと宝箱を見つけ……

宝箱を見つけていない逃走者は6人になった。

プリン「ぜんぜん見つからないプリ……」

プリンもその一人だ。

シーク「あっ、プリンじゃないか！宝箱は、もう見つけた？」

プリン「まだプリ・・・」

シーク「じゃあちよつどいい、あっちにまだ開けられていない宝箱があったよ。」

プリン「本当プリ？でも、シークはいいのかプリ？」

シーク「僕は、もうすでに見つけてるからね。じゃあ、頑張つて！
！！！」

プリン「ありがとうプリ」

プリンは、シークに言われた方向へ走っていった。

プリン「あったプリ。さあ、開けるプリ・・・」

中に入っていたのは・・・

プリン「何で、高校受験の参考書が入ってるプリ？意味が分からないプリ・・・」

何で、参考書？もっと違うもの入れとけよっ！

まあ、そんなこんなでミッション残り時間20分。

まだ宝箱を見つけていない5人は大丈夫なのか？

MISSION 2 パート ツー (後書き)

感想待ってまーす

MISSION 2 パートスリー（前書き）

今日のうちにもう一話、書いてやいました！

MISSION 2 パート スリー

セントラルエリア、城前。

メタナイト「城だ……。ここの上階だろ。」

トレーナー「あっ！メタナイト。この城、エレベーターがないんだよ！知ってた？」

メタナイト「そうなのか！？って言うことは……。階段？」

トレーナー「そういうことだね！じゃっ、先に行くから。」

トレーナーは走っていった。

そして、城の階段ではピットとマルスが競争中であった……

ピット「俺が、一番だあああああー！」

マルス「違う！俺が1番でおまえが2番だああああ！！」

両者、一步も譲らず、互角の戦いをしている。

そして、やっと最上階辺り。

ピット「はぁ・・・はぁ・・・もう・・・すぐ・・・」

マルス「はぁ・・・疲れた・・・もう・・・無理。」

1階から最上階まで一気に駆け上ってきた2人は、ふらふらしている。

マルス、ピット「っ、ついた！」

最上階に着いた2人の目の前には・・・

カービィ「あつ、2人とも！僕が一番だったペポ！」

ミッションをクリアした、カービィがいた。

マルス、ピット「……………」

カービィ「じゃ、バイバイ」

カービィは、階段を下りていった。

ピット「絶対、一番だと思ってた。」

マルス「うん。俺も、絶対1番って確信してた。」

そういうと、2人は仲良く一緒に納品し、ミッションクリア。

宝箱を一番速く見つけたファルコンは、ピットとマルスの後に無事10000円を納品しました。

これで、ミッションをクリアしたのは4人。

ミッション残り時間は16分となりました。

MISSION 2 パートスリー（後書き）

感想お待ちしております！

MISSION 2 パート フォー (前書き)

私の小説を見てくださっている方、ありがとうございます。

アクセス数もめっちゃ増えてうれしいんです。

これからも、よろしくお願いします。

MISSION 2 パート フォー

ルイージ「もう残り16分!? やばいやばい・・・まだ、宝箱も見つかってないのに・・・。」

ルイージは、宝箱も見つかってない5人のうちの1人だったようだ。
・
・

ルイージ「ほんとに、どこにあるんだよう・・・。って、あれハンターじゃねっ?」

ルイージの目線の先には・・・ハンター。

だが、いち早くハンターの存在に気づいたため、見つからなかった。

ルイージ「はあ、危なかった・・・さあ、宝箱探しを続けよう。」

そして、ルイージはそこから少し行った所で宝箱を見つけた。

ルイージ「なんか今日、めっちゃ運がいい気がする。」

そついいながら、宝箱を開けると……中には……

ルイージ「おっ？これって……キノコ？」

キノコが入っていた。

あと、手紙がそえてあった。

手紙の内容は……

このキノコは全然危なくないので食べてもいいよ
一応、納品するものだから少しだけにしてね。
ちよつと、色が汚いけど、心配しないで……
決して毒キノコじゃないから

なんとなく怪しい文面だ……

ルイージ「これ……絶対毒キノコだろ……。見るからに、色が
変だもん。」

キノコの色は、緑と赤の組み合わせだった。

ルイーダ「時間ないし、速く行こ！」

ルイーダは、キノコだけをもって城に向かった。

ルイーダはこの紙も宝箱の中に入っていたのに、キノコだけを持って行ってしまった・・・

さあ、いつ気づくのだろうか？あの紙も納品しなければいけないという事に。

ピーチ「あら？ゼルダじゃない・・・。宝箱はもう見つけた？私は見つけたわ。」

ゼルダ「見つけましたよ。それじゃあ、ここから一緒に行きませんか？」

ピーチ「そうね！行きましょ！」

2人は一緒に城へ向かった。

リュカ「宝箱、見つからないねえ・・・」

トウーン「そうだね。一体どこにあるんだろ・・・」

スネーク「そろそろ、時間がやばいぞ・・・さっさと見つけていくぞっ」

こちらは、3人のようだ。

実は、トウーンとスネークは宝箱を見つけているのだ。

宝箱をまだ見つけていないリュカと一緒に行動してあげてるなんて優しいなあ・・・

トウーン「あっ、あれ宝箱じゃない?」

声をあげたのはトウーン。

リュカ「ほんとだ。2人ともついてきてくれて本当にありがとうお
」

そういうと、リュカは宝箱を開けて中身を回収した。

スネーク「よしっ、城はもうすぐそこだ！絶対に成功させるぞ！」

トウーン、リュカ「おーー！」

なんだか、楽しそうなのだが、3人に迫っているのはそんな雰囲気
をぶち壊しにするあいつ・・・ハンターだ。

スネーク「あれは！ハンターだ。もう見つかったぞ！」

トウーン「逃げろーーー！」

3人は逃げ出したが・・・ハンターとの距離は3メートルほどしか
ない。

スネーク「これでは3人捕まってしまう。俺が、おとりになるから
子供たちは行ってくれ。頑張れよ。」

リユカ「スネークさん・・・ありがとうございます。」

そして、トゥーンとリユカは向こうへ、走り去った。

子供たちが見えなくなったところ・・・

ポン。

スネーク確保。

残り29人。

ぴろろろろろろ・・・

トゥーン「メール・・・やっぱり、スネークさん捕まっちゃいましたか・・・。」

リユカ「僕のせいだ・・・。よしっ！スネークさんの分まで頑張ります。もし、復活のミッションなどがあればスネークさんを生き返らすことにします。」

ミッション残り時間は12分。

まだ宝箱を見つけていない人は3人。

そろそろ、やばい時間になってきた。

MISSION 2 パート フォー (後書き)

スネーク、いい人に見えました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7779x/>

スマブラで逃走中やっちゃんよー

2011年12月15日23時52分発行